

# 令和元年度第3回総合教育会議 議事録

## 1 開催日時

令和2年2月26日(水) 13:30～15:00

## 2 出席者

### (1) 構成員

市長	園田 裕史
教育長	遠藤 雅己
教育委員	渡邊 敬
教育委員	佐古 順子
教育委員	嶋崎 真英
教育委員	中嶋 剛
教育委員	前田 愛

### (2) 説明者

教育政策監	丸山 克彦
教育次長	吉村 武史
こども未来部長	山中 さと子
教育総務課長	三岳 和裕
学校教育課長	橋口 智秀
こども政策課長	赤瀬 雅昭

### (3) 事務局

企画政策部長	山下 健一郎
企画政策課長	石山 光昭
企画政策課係長	松園 洋平
企画政策課職員	宮田 淳仁

## 3 報告

- (1) 教育大綱について
- (2) 令和2年度教育に関する方針及び予算(案)について

## 4 その他

## 5 閉会

### [資料]

- 1 教育大綱について
- 2 令和2年度教育関係予算(案)の概要について(抜粋)

## 企画政策部長 山下 健一郎

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から令和元年度第3回総合教育会議を開催いたします。本日も司会を務めさせていただきます、大村市企画政策部の山下でございます。よろしくお願いたします。

まず始めに、今回、令和2年最初の総合教育会議ということで、今回から前田委員が参加をされております。会議に入ります前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。配布しております資料は、会議次第と資料1「教育大綱について」資料2「令和2年度教育関係予算（案）の概要について」以上、ふたつの資料を配布しておりますが、お手元でございますでしょうか。宜しいでしょうか。

それでは、早速ですが、次第に沿って進めてまいります。開会に当たりまして、大村市長園田裕史がご挨拶を申し上げます。

## 大村市長 園田 裕史

皆さんこんにちは。本日は令和元年度第3回総合教育会議に大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。ミライONでの総合教育会議は初めてでございますが、良いですね。気持ちも良いですし、良いなと思いつつここにきてまいりました。今日はそのせいもあってか大変多くの傍聴の皆さんもお越しいただきありがとうございます。私も2月8日から12日までカンボジアとタイへ海外出張しておりまして、帰ってきたその日に東京に出張し、帰ってきた翌週にまた東京に出張して、その後福岡にということでバタバタしておりまして、昨日、ものすごく体調を崩してしまって、コロナウィルスではないのですが、急性胃腸炎で昨日は本当に大変な状況であったのですが、今日は完全に復活しております。病院の先生に聞いたら、週末3連休の当番医でたまたま診察してもらったのですが、170人ぐらいのうち半分が胃腸炎だということで、胃腸炎も流行っているんだなと思っていて、私もその中のひ

とりになっていたのですが、コロナウィルスについても万全の体制を行っていかねばいけないのですが、インフルエンザ、胃腸炎も含めてぜひご留意いただければと思っています。今日は前田委員に新しく仲間に加わっていただきまして、初めての総合教育会議ということで、ぜひ活発なご意見を今までのご経験を含めてお話いただければと思います。

今日は大綱の見直しが5年に1回になりますけれども、大綱の見直しと、それと第3期の教育振興基本計画の見直しは教育委員の皆さんにご協議いただいていると思いますし、パブコメ等もちょうど終わったぐらいだと思いますけれども、来年度から新しい形で教育行政が大きく変わっていくということもありますので、それに関連する予算等も説明をさせていただきます。大綱と予算の内容についてです。ぜひ、今回の会議でいただいたご意見を、次年度の課題と合わせて協議させていただいて、令和3年度の様々な教育行政の予算化に結び付けていきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。最後になりますが、ちょっとひとつ大きな話をいくつか教育委員の皆様にもお伝えをしたいと思います。ひとつはお陰様で再選をさせていただいて、初めての2期目の当初予算という形で今回参加させていただいて、明日から臨むわけですが、マニフェストの中にも書いている大きな項目として3つあります。ひとつは特色ある大学、あるいは学部を誘致するというので、これまでも教育のまち「おおむら」五教館があった大村が、教育に対してもっと力を入れていくためには、大学を誘致するべきだ、もしくは学部を誘致するべきだという声が市民の皆さん、教育委員の皆さん、市議会からも多く寄せられていて、これまでもいろいろな識者の方々と意見交換を図ってきたところなのですが、いよいよ具体的にどの大学、学部の誘致ができないかということでひとつ前に進めたいなと思っています。これまでも言っていたのですが、どこでも良いというわけ

ではなくて、私自身も大学に行けていないのですが、とは言っても時代の中で大学はどこかに入ろうと思ったら入れると思うんですね。そんな中でどこでもいい学部ではなくて、特化した学部か、もしくは国公立というなかでの大学というものを誘致することができれば、いろいろな形の中で大村市で実現が可能かどうか、しっかり詰めていきたいと思っていて、大学・学部の誘致をマニフェストの中にも所信表明の中にも、また、今回の議会の施政方針の中にも書いています。これがひとつです。

もうひとつは、先般、大村市に竹中平蔵さんが講演に来られて、私も対談をさせていただいたのですが、その中で嶋崎委員もお越しですけれども、やはりこの長崎が、長崎市のMICEやジャパネットが進めているスタジアムシティ構想、佐世保のIRとか、こういった100年に1度のプロジェクトがある中で、最も重要なのはこの県央の大村で、玄関口で空港がある、令和4年には新幹線も開通する、こんな恵まれた立地というのは全国的に見て14か所ぐらいしかないんですね。1,742か所の自治体があるのですが、その中で14か所しか空港、高速のインター、新幹線を有するまちは無いんです。加えてこの図書館を持っているという。全国で一番の立地とポテンシャルを持っているのが大村市だと思っています。この空港をコンセッション、民営化することを含めて、様々な形で未来的なまちづくりを進めることができる、いわゆるスマートシティであったり、スーパーシティにチャレンジしたいと思っていて、先般、空港のコンセッションやスーパーシティについて、竹中平蔵氏と対談をさせていただきました。そのことが今後の市民の生活をより豊かにする、何かよくわからん横文字でかっこよいまちをつくるって市長が言っているとよく言われるのですが、そんなことではなくて、キャッシュレスで買い物をすれば今でも5%は還元して返ってくるんですね。それで、渡邊先生がいらっしゃいますけれども、今、高齢

社会の中で、薬だけ欲しい患者さんがいるのに、今だったら薬局に取りにいかなければならないけれども、規制が緩和されて、特区が認定されてスーパーシティになればドローンが薬を運ぶことができるわけですね。市民の生活が豊かになるために、スーパーシティの認可を取りにいきたいと、それで自動走行のバスが走ったり、公共交通がガラリと変わったり、そういった場所を是非できないかということで、スーパーシティ、スマートシティといった未来のまちづくりにチャレンジしたいと思っています。こういったまちづくりの形が進んでいくと、次世代の産業、次世代の子ども達の教育、ITとかAIとか、そういったところに繋がっていくので、進めていきたいと思えます。

最後に3つ目ですがVファーレン長崎のホームタウン拠点誘致ということですが、これは何も私はサッカーが好きでもないし、観はしますけれどもVファーレン長崎が好きということではなく、県民球団としてはファンで、盛り上げていこうという気持ちは誰よりも持っている首長だと思っていますが、サッカーが好きな方とか、Vファーレンを誘致したいとか、練習場を整備したいとか、そういうことでは全然なくて、簡単に言うと、去年のラグビーワールドカップで起きたような市民の一体とした盛り上がり、市民がこれがあるといったことに、町に対するシビックプライドとか、まちの誇り、こういったものを2040年には大村の人口が減少しているかもしれないので、その時にいかに、市民が大村市に住んでいて良かった、子ども達の教育、大人達のいろいろな形でのまちづくり、または新しい経済や新しい観光、こういったものに繋がっていくか、そこにはトップアスリートが身近にいる教育だったり、高齢者の健康寿命、スポーツに親しむ、こういったスポーツ・文化を核としたまちづくりの一番のシンボルに今回のVファーレン長崎のホームタウン拠点誘致があると思っているので、20年先を見据えた投資ということで、これを考えることができないか議会

とご議論させていただきたいと思っていて、この3つを掲げています。当時、平成9年にシーハット大村が開館したときに、時の人口は8万人ぐらいでした。甲斐田市長が作るといわれたときに、100億のスポーツ施設を作って何なんだと、ものすごく言われたらしいです。ところが今、シーハットがあることによって大村市はいろいろな形で県央に全国から九州から人が集まってきています。こういった20年後に、あの時にこういったことを進めていて良かったと思われるものになり得るのではないかというのが私の考えです。これは教育委員の皆さんにも子供たちの教育にも大きく関わってくるのだと思って、柱としてちょっとお時間をいただいております。

今日の教育会議ではふたつの議論となっておりますけれども、どうぞ宜しくお願いいたします。

**企画政策部長 山下 健一郎**

それでは次第3、報告に移ります。ここからの進行は大村市総合教育会議運営要領に従い、市長が行います。園田市長、お願いいたします。

**大村市長 園田 裕史**

それではまず協議事項の1、教育大綱についてでございます。令和2年度から5年間の教育大綱を教育委員の皆様のご意見をお聞きしながら作成いたしました。内容について事務局から願います。

**企画政策部長 山下 健一郎**

それでは私の方から説明をいたします。資料1をお読みください。表紙に大村市教育大綱と記載をさせていただいて、表紙は4少年のモチーフになります。大村の歴史を誇る少年達でございますが、4少年をモチーフにさせていただいております。

**教育委員 中嶋 剛**

ちょっとその前にいいですか。以前、送っていただいたものと全く一緒ですね。

**企画政策部長 山下 健一郎**

そうです。

**教育委員 中嶋 剛**

はい、分かりました。

**企画政策部長 山下 健一郎**

新しく差し上げたものがありますね。それでは1枚めくっていただいて、大綱の主旨につきましては、これまでずっと論議をしていました。これまでの経過からいたしますと、昨年10月2日に総合教育会議をさせていただいたときに、市長の考えをお伝えさせていただきました。それをもとに私ども事務局の方で調整をいたしまして、11月20日定例教育委員会で教育大綱の案を説明をして、意見をいただいたところでございます。その時には言い回しなどの指摘、複数重なっているところのご指摘をいただいたところです。その後、私どもも協議をした中で、今年1月15日の定例教育委員会で教育大綱（案）として再考させていただきました。ご意見をいただいたところですが、特にそのときに指摘はなかったということでは思っております。それを受けまして今回の教育大綱の策定というようにさせていただいております。お手元の資料1の教育大綱の中で、大綱の趣旨、大綱の期間、3大綱ですけれども、大綱を次の6項目とし、その実現に向けた取組を推進していきます、ということです。「おおむら」らしく6つの想いを大綱とさせていただきました。ページを開いていただきまして、1から6、1「人間力を磨こう」、2「たくましく生きよう」、3「自分らしく生きよう」、4「挑戦する勇気をもとう」、5「おおむらへの想いを大切にしよう」、6「ミライを切り拓こう」、というこの6つの想いを教育大綱として書いたところです。それぞれの内容につきましては記載のとおりでございますが、その中身につきまして、先ほど言いましたとおり、11月20日から1月15日まで調整をさせていただき、市の中でも市長部局のなかで調整をさせていただいたところでございます。事務局からの説明は以上でございます。市長の方から思いを伝えていただければと思います。

## 大村市長 園田 裕史

私からの想いをということですが、当たり前ですが、初めて教育大綱というものを書くということにあたり、自分で一生懸命いろいろな資料を引っ張ったり、参考になるものを読みながら落書きをして、それをまとめてこういった形に、かなり凝縮していただいて、ここにあるのですが、基本はやはり改めて昨年のローマ教皇がお越しになったことや、石井筆子の生涯をNHKの大河ドラマにできないかということもそうですけれども、やはり大村市から先人たちを輩出した行動や行為を今の子ども達に伝えたいなど。極端に言うといつも言うのですが、今我々がスーツを着ていますが、4少年が8年間かけてヨーロッパの外交を成功させていなかったら、今我々はスーツを着ていないかもしれないと、それぐらいヨーロッパへ向けての初めての外交を成功させたから、幕末から近代日本における外国とのやり取りに繋がって今があると思うと、本当に天正遣欧少年使節や幕末維新で活躍した石井筆子とか、素晴らしいんだなと思って、そういったことを今の子ども達にしっかり伝えていきたいと思います。「おおむら」ということにこだわって、市になったのも昭和17年2月11日で1町5カ村、6つの市章に表れているように、この6つにこだわって6項目で書いております。やはり当然、学力向上というものも一生懸命取り組んでいますが、それと同じように大事なのが今からの社会で人間力を磨こうということが重要になってくると思いますし、また次世代の対応というIT、IoTといった次世代のテクノロジーに意識をもった教育環境であったり、学びが必要であったり、それと偉人たちを問うことで結果的に大村市の郷土愛を育むことになりますので、そういったことを書いております。最後の6項目では、「ミライ ON」がオープンした時にも掲げましたが、ここでいろいろなことが生まれて、ここで出会いがあって、ミライへスイッチ ON をひとりひとりできる場所になるようにという想いを込め

てミライ ON が開館しておりますので、そういった教育を大きな大綱として謳いたいなと思っていて、こういう大綱にしております。ぜひ、皆様から忌憚ないご意見をお願いして、まだまだ修正可能でございますので、教えていただきたいなと思えます。

## 企画政策部長 山下 健一郎

すみません、事務局から今日は傍聴の方もいらっしゃるのでもって教育大綱はなんぞやというものを説明させていただきたいと思えます。この教育大綱というものは、従来、教育委員会の中で教育委員会の思いを予算に反映していたというところがありましたけれども、平成27年当時、市長の思いと教育委員会の思いをすり合わせるべきではないかということで、教育委員会は市長部局と別の組織だということもありまして、そこをうまく調整していくべきだということがありまして、大村では特に異論があるとはなかったのですが、全国的にこういった教育大綱を市長のもとでつくるということになり、それに基づいて教育委員会が予算を要望するときに、市長部局の思いを受けて予算を作っていくことも必要ではないかということがあり、教育大綱に基づいて、教育委員会は教育振興計画に基づいて予算を重視していくということで連携していくことの中のひとつの指針として教育大綱を作ったということでございます。前は平成27年7月に大村市教育大綱というのを作りましたけれども、その時は、4つの大綱という形にさせていただいております。1番「人間性を重視した学校教育の推進」、2番が「生きる力の基礎となる家庭教育の充実支援」、3番が「自分らしく生きるための学びの支援」、4番が「歴史・伝統を尊重するとともに多様な文化、価値観を学ぶ環境づくり」という形で4つ出しましたが、前は前の市長のときに作ってありまして、今回は園田市長になっての初めての改定という形で6つの項目に転換をしたというような形でございます。これと今般、教育委員会で作っています教育振興計画とす

り合わせをして、来年度からスタートするという形が現状となっておりますので、傍聴の方々は話の途中からですので分からないところがあるかと思えますけれども、教育大綱の内容の説明は以上です。

**教育委員 中嶋 剛**

ひとつ最初に押さえていきたいところが、この6つの大綱これが1番からずっと重要なものから並べているのか、あるいは均等に入れていっているのか、これをまずひとつ押さえておきたいのですが。

**大村市長 園田 裕史**

これは、私としては均等であります。当然、優先順位等々考える場合もありますけれども、これについては、本当に重要な内容が書いてあり、特に1番が1番大事というわけではなく書いております。

**教育委員 中嶋 剛**

最初にいただいた第1案、第2案とあったので、ちょっと順番が違ってきているんですね。それに何か意図があったのかなと思って今のような質問をしました。

**企画政策部長 山下 健一郎**

この案を練る時に、市長だけではなくて副市長や私どもも入って、この順番を市長は均等という形でお話されましたけれども、バラバラでいいとか、そういったところではなくて、重要度ではなくて、ある程度整理をした方が良いのではないかとということで、重みは均等ですが、順番は従来の方が座りが良いのではないかとということで調整をした経緯があります。1番最初と順番が入替わっていますが、そういうことを配慮して順番を少し入替えたということです。

**教育委員 中嶋 剛**

いわゆる一番最初に「人間力」ということで家庭における重要性も織り込まれていますね。なるほどこれが考えていらっしゃることだなということとはよくわかりました。

ひとつ小さなことで、文言的に最初の大綱の趣旨というところが大きな1番でまずありますが、「先人たちの想いを受け継ぎミライへつなぐ」と、この3行目に大村市のミライをつくる、「ミライをつくる」が良いのか、「ミライを担う」が良いのか、この点を少し議論していただければと思っています。それからこの6項目の中で、6番の「ミライを切り拓こう」というところで、2行目に「スイッチON」する人を育む社会を目指します。とありますが、ここは「教育」ではないかなと、ずっと前の文言を読むと「教育」を目指します、という締めになっていますので、1番4番がそうなので、ちょっと検討してみてください。

**大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。参考になるご指摘ありがとうございます。まず、趣旨のところですが、その表現は検討していきたいと思います。6番については、だいぶ協議をしたなかで、「社会」とした意図は、確かに「教育」のほうが良くて「教育」にしたいなと思っていたのですが、「社会」としたのは地域全体でそういう環境を作るのを読み取りたいなと思って、それがどういう表現であれば良いかなと思った時に「社会」かなと思って書いたのですが、確かに先生がおっしゃるように、そういう教育を地域全体で目指したいですね。

**教育委員 中嶋 剛**

教育大綱ですからね。

**企画政策部長 山下 健一郎**

今のところですが、確かにだいぶ悩んだところなのですが、いわゆる教育という部分で話していたのですが、大人たち皆がそういう環境を作ろうという、そういう周りを作ろうということで「社会」というように書き換えた経緯がありました。ここは副市長も含めて論議したところです。「教育」となると育てていく、導いていくということだけれども、現時点において、はたしてそうかなと、現時点において、そこまで大人の社会のところまでもっていけるかなということもあって、

皆で地域で育てるような環境を作りましょうかというので、少しでもそういう環境を目指すために「社会」という表現にしたというのが本音のところではあります。

#### **教育委員 中嶋 剛**

もうひとつは、この1番から6番まで見たときに、今オリンピック、オリンピックというように叫ばれているのですが、いわゆる障害を持ったパラリンピックも非常に大切な競技だということで、マスコミも大いに取り上げています。そこで、子供たちに障害がある方へのいわゆる共生社会という、共に生きるという思いというのを、やはり教育の中にきちんとはめ込まなければならないと思いますね。そう思った時に、この6つの中にそれがどこに入るかなと思っていたのですが、1番の「人間力を磨こう」というところの、生きる力、命の大切さ、多様性を尊重できる、この部分かなと思うのです。だからそういう風に解釈していいのかということで、そういう文言を、障害のある人、支援を要する人への教育がこれからますます必要になってくると思いますので、この6つの中にドンと載せるのも今からではできないと思いますので、1番の中にそれを含めていただければいいですよということであれば、私たちもそういう解釈をしても良いでしょうか。

#### **大村市長 園田 裕史**

おっしゃる通りでございます。この「多様性」という中に、障害があらわれる方を含めて、もっと言うとLGBTであったり、幅広い色々な形での共生社会の中で、多様性をしっかり認め合うということがあって、その多様性の中に集約をされておまして、正直パラスポーツであったり、パラに関することでもスポーツのことも下書き、落書きの時点ではいろいろなことを書いてはいるのですが、やはりある程度集約が必要で、それで書いたのが「多様性」ということなので、ただ中嶋先生がおっしゃるようにちょっとその部分がこの「多様性」だけで表現として良いのか、この辺りはあるかも

しれませんね。

#### **企画政策部長 山下 健一郎**

確かにこの1番のところは、特に命の大切さの部分の表現をどのように押した方が良いのか、かなり悩みました。先ほどの障害やLGBT、本当にいろいろな多様な引き出しがあるということで、個々に表現することは逆に難しいということもあって、ここはそういった形で省略をさせていただいたところがございます。各項目、それぞれに長くあったのですが、あまり長くなりすぎるとばやけてしまうというところもあったので、ちょっと省略をしたところもあります。ストレートに響かないところもあるかと思いますが、言われたところはしっかりと思いはあります。

#### **教育委員 中嶋 剛**

そうであるならば、2行にまとめてありますが、これを3行ぐらいにしても良いのかなと、その中にやはり今のようなことをもうちょっと入れた方が良いような気がしますね。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。是非、そういう形で再考させていただきたいと思います。他に委員の皆様からないでしょうか。嶋崎委員これからの産業を見据えたところでないでしょうか。

#### **教育委員 嶋崎 真英**

教育大綱の6つの項目は、教育方針に対する市政のビジョンが含まれており、市長の思いが伝わってきます。ただ、各項目のタイトルの下にその内容を書いた方が分かりやすいのではないかと思います。例えば、1番目の人間力を磨こうであれば「多様性」、2番目であれば「コミュニケーション」、3番目は「オリジナリティ・独自性」、4番目は「挑戦と勇氣」、5番目は「郷土の誇り」、6番目は「未来を築く、見つかる」というようにです。その方が、何故、6項目に分かれているのか明確になるのではないかと思います。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。そうしたら、もう一回

ですね、山ほど書いたのですが、役所的には集約した経緯があつて、ちょっとおっしゃるようになりにもスマートすぎて伝わらない部分も多少あるのかなと思いますので、そこは折角なのでもう少し中身を書いて、ちょっと充ててみたいと思います。

**教育委員 中嶋 剛**

嶋崎委員がおっしゃるように「人間力」というのは、これ全体を網羅しているんですよね。

**大村市長 園田 裕史**

やはりここで伝えたい「人間力」というのは、平たく言うと頭でっかちではだめだよということなんですね。やはり「人間力」をもって社会で生きていけるというか、そういうメッセージなので、もうちょっとしっかり分かりやすく伝えられるようなものを考えたい。

**教育委員 嶋崎 真英**

「人間力」というのは6つのエッセンスを備えたものを付け加えたら、難しいところですが、人は一生をもって努力するだろうと思うのですが。

**大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。全体として確かにちょっと説明不足の点もあるかなと、それでIOT等というものです、もうちょっとなぜこれが「教育」という部分に直接的に結び付いているのかというところであったり、その辺りを含めて変えていった方が良いかなと思います。6番の「ミライON」に対してもですね。ちょっと再考させていただいて、どういうスケジュールになっているのですか。

**企画政策部長 山下 健一郎**

スケジュール的には、今年度、来年スタートになるので、これをまとめて総合教育会議の中でまとめたものを正式に策定という形で作った後、議会の方にこれを説明して来年の4月からスタートという形になります。1か月の中での手続きということになるかと思っています。

**大村市長 園田 裕史**

もう一回、総合教育会議のなかでということとは。

**企画政策部長 山下 健一郎**

総合教育会議の中では逆に難しいと思います。今まで総合教育会議を組んでいたところで3回調整させていただいておりますので、策定事項については市長の権限で同意を得られれば、今後の微調整という形であれば良いかなと思います。

**大村市長 園田 裕史**

今、整理ということであればそういう格好でということですが、それで宜しいですか。

**教育委員一同**

(同意) はい。

**大村市長 園田 裕史**

ちょっと再考して、あとそれ以外に、指摘事項以外にこれは何かというようなことはないでしょうか。

**教育委員 佐古 順子**

嶋崎委員がおっしゃったように、「自らの力で道を切り拓いていく」という子供たちがいっぱいということで、気持ちがとても強く書かれていると思います。いくつかキーワードがあるかなと思ったのですが、人生100年時代とか、ビッグデータを活用した社会とか、グローバル化による社会とか、やはり子供たちに4少年の絵とか、6つのキーワードの言葉とか、思い出すとたくさんあるのですが、どれにでも当てはまるのではないかと感じていて、とても良いなと思っています。市長さんがおっしゃったように、超スマート社会の実現とか、ニーズに関しても平和とか時差出勤だとか、急速に社会が変わってきたように思います。多様化したというか、そういう意味でもですね。

**大村市長 園田 裕史**

変化すること、変化に対応することは大事ですよ。ちょっと今の部分を含めてやっていきたいと思っています。他に何かありませんか。

**教育委員 渡邊 敬**

6項目思いが伝わってきて非常に良いと思うのですがけれども、ちょっと分かりにくいところがあつて、例えば4番ですが、「AI、IoT、ICT等、社

会の流れが急速に変化していく中、変化に対応し挑戦できるよう個性を尊重し、可能性を伸ばす教育を目指します」とありますが、もうちょっと具体的に自分から何かを発信するような力とか、例えば今のネット社会とか SNS とかいろいろな弊害がでてきて、ちょっと混乱している社会とっていますので、その辺をちょっと取入れて、流れは変わるのですが、変わらないものもあるということで具体的に書かれると良いと思います。

#### 大村市長 園田 裕史

ありがとうございます。今、いろいろと皆様からいただいたご意見を参考に早急に考えたいと思います。あとひとつ補足というか、皆さんご理解いただいていると思うのですが、最近なんで「ミライ」をカタカナにしているのかと言われるのですが、「ミライ ON」もカタカナであるのもそうですけれども、カタカナ表記は「なんで」ということがひとつ目的でありまして、強調したいということでありまして、漢字でもなく、ひらがなでもないというようなところです。それでは教育大綱については、そういった皆様からのご意見を踏まえてしっかり形にしていきたいと思います。

それでは次に報告事項の 2「令和 2 年度教育関係予算(案)」の概要について事務局から説明をお願いいたします。

#### 企画政策部長 山下 健一郎

それでは令和 2 年度の教育関係予算(案)の概要について説明させていただきます。

まず、手元に資料がなくて申し訳ないのですが事業概要の前に市長が 3 月議会に入りますと、令和 2 年度の施政方針説明というものを行います。これが市長の考え方とさせていただければと思います。その中でどんなことを市長が言っているかということ朗読させていただきます。私の方で朗読をさせていただきますね。まず、この施政方針につきましては、大村市の総合計画に基づいて作っております。その総合計画が「しあわせ実感都市おおむら」この実現に向けて作っているとい

うことで、総合計画の中で項目があるのですが、まず一番に「ひとを育むまち」というものがござります。これにつきまして施政方針の中では、昨年オープンした「ミライ ON」長崎県立大村市立一体型図書館及び大村市歴史資料館は本年 10 月に開館 1 周年を迎えます。県立市立一体型図書館として、図書や資料の整理など基本的機能の強化を継続しながら多くの人を楽しんでもらえるように思考を凝らしたイベント開催にも取り組んでいきます。また、歴史資料館においては、特別展の開催や歴史講座を始めとする教育普及活動の実施など、市民の皆様が郷土の歴史に触れる機会が多くなるように活動を充実させ、地域学習の拠点として一層の魅力ある施設になるように努めていきます。ということをこの項目に書いております。また、後半の方では学校関係のことを記載しております。令和 2 年度は小中学校において、学びや育ちの連続性という視点に立った「小学校と中学校の円滑な接続」、学校と保護者・地域コミュニティなど「社会全体で連携、協働する教育」を意識した「新たな三学期制」に移行するとともに、新学習指導要領が順次実施されるなど、時代を担う子供たちの教育にとって大きな節目の年になります。子供たちは学校だけの学習だけではなく、文化・芸術活動やスポーツ、そして地域の伝統行事等に積極的に参加することにより、“やれば出来る”という日々の小さな自信や達成感を感じることで、“ミライに繋がる大きな夢や志”を持つことが出来ることを確信をしています。「豊かな学び」「確かな育ち」「多様な感性」をキーワードとした社会全体による教育活動を通して社会の一員として自らたくましく生き抜く人間に育ち、豊かな人生を送れるよう導いていきます。そして、中学生の学習習慣の確立、基礎学力の定着及び放課後の居場所づくりを目的として現在、これから具体的な話になるのですが、玖島中学校で実施している「OMURA 未来塾」を新たに西大村中学校でも実施します。また、現在市内 6 小学校で実施している放課後こども教

室を新たに旭ヶ丘小学校でも実施します。小学校及び中学校の学校給食費の管理について更なる透明性の向上、教職員の負担の軽減などを含め公会計制度に移行します。昨年1月に着工した中地区公民館が本年5月に開館します。生涯学習のふれあい公民館と西大村出張所の機能のほか、高齢者の生きがいづくりの場である中地区ふれあい館と大村市立図書館分室の機能が新たに加わります。地域住民への学びと集いと拠点として充実した運営に努めていきます。ということを1番で方針の説明をしております。次に2番に「健康でいきいきと暮らせるまち」を目標にしております。その中で2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ポルトガル及びベトナムのホストタウンとして人的、経済的、文化的な総合交流をはたすとともに、5月に本市で行われる聖火リレーなどを通じてオリンピック・パラリンピックへの機運を醸成し、大会期間中のパブリックビューイングの実施などにより、市民のスポーツへの関心を高め、更なるスポーツ文化の普及と健康意識の向上を図ります。大村市総合運動公園内にサッカー場などの施設を段階的に整備し、人材育成、交流の促進、市民の健康増進、雇用創出などにつながるスポーツを軸とした活気あふれるまちづくり、いわゆる「スポーツシュール」構想の実現を目指します。2の「健康でいきいきと暮らせるまち」の中で述べております。3番目の「安全・安心なまち」では、児童・生徒の安全を確保するため、今年度に引き続き、桜が原中学校付近の指導路側帯のカラー舗装化や、竹松小学校裏の辻第2踏切付近の拡幅のほか、通学路への白線の復旧や設置を行います。さらに、昨年発生した滋賀県大津市の事故を受け、園児等の移動経路の交通安全の確保のために、ガードパイプの設置や指導路側帯のカラー舗装化などを行います。また4番に「活力に満ちた産業のまち」がございます。ここでは、次世代型産業の人材育成や本市の教育力の向上、企業誘致、地場企業の振興、地域活性化な

どのため、特色ある大学、学部等の誘致を進めていきます。5番目には「機能的で環境と調和したまち」というのがございます。その中では、政府は2030年までに達成すべき国際社会全体の普遍的な目標として国連サミットで採択された、貧困の撲滅、環境保護など17のゴールからなる、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)、いわゆるSDGsを達成し、「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指しています。本市においても、SDGsの理念や目標を踏まえ、企業や団体、市民と連携を図りながら、SDGsの達成に向けた取組を進めていきます。というのを述べています。教育関係に関するものは以上のようなことで今年の施政方針の説明にのせております。後から施政方針について資料をお配りさせていただきます。事業概要について、加えて説明させていただきます。お手元に事業概要の抜粋という形で一番頭に「子育てしやすいまちづくり」という記載が左の上にあります。その中で大綱に沿って左側に小さく書いておりますけれども、大綱に沿った数字を入れております。ただ1ページ一番最初のところの子ども医療費助成事業というものを入っていないのですが、事業概要としましては子ども医療費助成として、中学校卒業までの者が医療機関ごとに支払った保険診療にかかる一部負担金から自己負担額を除いた分を助成します、という子どもの医療費助成が含まれています。また、5番目に「教育・保育施設給付事業」ということで、保育所やこども園、家庭的保育事業等における、運営費の給付を行うということ、子どもが教育に係る予算のひとつでございます。2ページをお開きください。一番上に大綱4に該当するということで、6番「教育・保育施設整備事業」、3ページの大綱2と4に該当する「放課後子ども教室推進事業」、それと12以下はすべてですが、12「小中学校連携一貫事業」、13「小学校教育ICT機器活用事業」、14「小学校施設環境改善事業」、15「小・中学校就学援助事業」、次の4ページも全部該当い

たしますが、16 から 20 まで、それと 5 ページの 21 から 22、23 と 33、これらが教育に関係する事業でございます。後ほど、定例教育会議の中でも説明があると思いますが、私ども市長が予算を組むにあたっての事業内容をまとめさせていただきました。説明は以上でございます。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございました。事業概要の資料に予算がざっくりと書いてありますけれども、ちょっと繰返しになるかと思いますが、ざっくり言うと、昨年度から医療費の補助を中学生まで拡充をしております、その部分について最初子育てしやすいまちづくりとして、大綱の 5 項目目のところが、これは幼稚園の施設の費用に関するところでした、2 ページ目がそうでした、3 ページ目の 11 番ですね、これが施政方針の中にもありましたように、新たに放課後子ども教室を令和 2 年度から旭ヶ丘小学校と西大村中学校で開講すると、これが令和 2 年に新しく開始になる、または拡充になるような事業です。それと変わっているところは、トイレについてですが、順次進めていっております、令和 2 年度は、大村、竹松、富の原小学校のトイレ改修が進んでいって、竹松小学校の運動場をやり替えます。これが令和 2 年度の新しい取組かなと思います。それと 4 ページについては、17 番目にこれまでもこういった形の中で教職員の負担が増してきているので、新たにスクールサポートスタッフというものを追加で配置いたします。せっかく配置をするのですが、作業が増えまして、18 番目に書いてあるフッ化物洗口を中学校まで拡充して令和 2 年度から開始するという事です。ちなみに、フッ化物洗口については、県内でほぼほぼ 21 市町の中学校で拡充をしていくという方針が県の中でも述べられていまして、歯科医師会また議会からも請願が駆け付けられていまして、そういったことも含めて内部で調整をした中で、17 番目のスタッフをしっかりと配置をして、教職員の負担がかからないようにして、フッ化物洗口を実

施するというようなことになっております。19 番目ですけれども、公会計に移行しますということですが、ざっくり言うと、今まで学校の先生が給食費を徴収されていたのですが、その管理や対応に対してのアプローチとか、こういった形の負担が非常に大きかったので、公会計にして市がしっかりと債権して取扱うので教職員の負担の軽減をするということに繋げていきたいと思っております。あとは特に大きく変わるということはないですね。以上でございます。

皆さんから予算に係るところですが何かありませんでしょうか。ざくばらんにといいか忌憚なく言っていただいて、これは何でまだしていないのかとか、あれをしないといけないとか言っていただけたら明日には間に合いませんが、令和 3 年度の予算にはいろいろな形の中でぜひ協議をして、協議を重ねていけたらと思っております。

#### **教育委員 中嶋 剛**

質問をお願いします。12 番目「小中学校連携一貫事業」ですが、592 万 8 千円とありますが、これがどういう運用なのかということと、それから 17 番目「スクールサポートスタッフの配置」これで教頭及び教職員の働き方改革の一環として、市内中学校にスクールサポートスタッフを配置しますと、そうすると従来からいる事務補助さんとの関連をちょっと聞きたいです。学校の鍵開け、鍵閉めについては全く入っていないように思うのですが、まずそれだけの質問をお願いします。

#### **学校教育課長 橋口 智秀**

失礼いたします。まず、12 番「小中学校連携一貫事業」の中身でございます。基本的に小中連携ということで、中学校区毎に企画をし、運営をしていく事業でございます。例えば小中学生が一堂に会して講演会をするとか、あるいは朝の挨拶運動をするにあたり共通の標語を作り、のぼりの旗を作ったり、あるいは小学校 6 年生が中学校 1 年生に上がる時に春休みに課題がありますが、それを冊子として配布をして活用するとか、そういう

小中学校が連携をして教育を行うということです。もうひとつは、e ライブラリーというデジタルコンテンツの学習教材を使用するものもここに含まれています。それからスクールサポートスタッフにつきましては、次年度、令和 2 年度は市内に 3 名の雇用を予定しております。業務内容としましては、ご指摘の事務補助の方は、現在 PTA 関係と様々な学校の印刷物や配布物の事務等をしてもらっていますが、スクールサポートスタッフはそれだけではなくて教職員の使う教材のプリントの印刷であったり、学級通信等々の印刷物であったり、教材物の集金のお手伝いやアンケート調査の集約であったりを行います。さらに、教頭職の業務についても、その調査物の集約や報告の補助などを行っていただくことも想定しております。そういった形で幅広く各担任、管理職に関わってサポートをしてもらっていただくところが大きく違うところかなと思います。そのひとつに中学校にフッ化物洗口が入りますので、フッ化物の洗口液を作る作業や容器の洗浄などの付随業務が加わってきます。それをお手伝いしていただくということを考えております。

#### **教育委員 中嶋 剛**

そうすると 3 名ということは、中学校は 6 校ありますので、半分ということですね。配置するところと配置しないところがあるということですね。

#### **大村市長 園田 裕史**

追加ですね。

#### **学校教育課長 橋口 智秀**

スクールサポートスタッフとしての業務はそうなります。フッ化物洗口に関しては 2 校かけもちして日にちをずらしてすることが出来ますので、違う日に対応してもらおうことにしています。その日一日はその学校のお手伝いをしてもらうという形で有効に活用してもらおうことにしています。それから鍵の開け閉めについては、業務内容としては入っておりません。宜しく願いいたします。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。その他に何かありませんでしょうか。嶋崎委員どうぞ。

#### **教育委員 嶋崎 真英**

大村は住みよいまちということで、県内で唯一人口も増えておりますが、教育関係予算が他市と比べてどうなのか、その比率などお調べになられていれば教えてください。

#### **大村市長 園田 裕史**

次長分かりますか。ここ 3 年は中学校の給食センターを作ったり、当然図書館を作ったり、エアコンを設置したり、割とというか、エアコンも他市に先駆けて行っているんで、そういう意味では以前よりは教育に関しては上がっています。図書館の事業費がこの次年度に収まっているので、全体を占める割合は、昨年よりかは落ちています。他市と比較したときに、次長分かりますか。去年のは、ありますか。例えばざっくりと去年の当初予算の全体額が 442 億円、このうちの教育費が約 35 億円、7.9%でした。今年度が 411 億 6 千万円、教育費が 33 億 8 千万円の 8.2%で、去年が 7.9%で今年度が 8.2%なので、去年よりは増えていますね。ということは、以前と比較した時には、とてもとも増えているということですね。減っていますか。去年と比較した時は減っているということですか。

#### **教育委員 嶋崎 真英**

私がお尋ねしたかったのは、大村市が他市に比べ、教育や子育てに対しどのくらいきめ細かい支援をされているのかという評価です。例えば転出超過数が 2,700 人を超える長崎市では、まち・ひと・しごと創生総合戦略で人口減少を克服されようとしています。そのような中、長崎市から大村市へ移転されるのは、どのような方なのか、また、どのような理由なのか分かればと思います。異動を機に大村市に定住される方もいらっしゃると思いますが、教育費、居住費や交通費などを総合的に考えて、大村は住みよい街と判断されたのかどうか。そのような

評価をしっかりとした指標として持っていれば、議会などいろいろな場面で質問されたときに、説明できると思います。

#### **大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。そういう意味で言うと、確かに全体に占める厚生費は去年よりも増えていますけれども、教育費自体は去年よりも減っています。図書館とかの分が減っているからだと思います。今、嶋崎委員がおっしゃったことは本当にありがたくて、長崎市などいろんな場所で繰返しそれを言うていただければと思いますけれども、ただですね、我々として今後考えていかなければならないのは、やはり繰返しですけれども、ここ数年、教育費の比率があがっていくのは、図書館、給食、エアコン、こういったハード面なんですね。こういったハード面は大事だし、ハード面にお金をかけることが当然覚悟をもって投資する、教育にお金を入れるということになるのですが、いろいろな部分でソフト事業をやっていくということが教育委員会の中でも非常に協議されているのですが、その部分についても充実したものにしていかなければいけないなと思っていますし、やはり今後、丸山政策監もいらっしゃいますが、文科省の方でもギガスクールとかですね、グンと大きく今提示をしているのですが、いわゆるひとり一台タブレットの教育方針であったり、文科省が大きく謳っていますので、今後そういうハード以外のことについても比率が上がってくると思います。政策監、この8%前後というのはどうなんですかね。予算における教育の率という8%というのは。分からないですかね。ただですね、8%というのは絶対増えていますよね。そういうふう以前調べていたものの詳細がこちらに持ってきていないのですが、平成25年度のを調べてもらっていいですか。当初予算の方を。後は何かないでしょうか。

#### **教育長 遠藤 雅己**

予算のところですが、前の教育大綱に戻りますが、全体的に見渡したときに、やはりほとんど1

番は「教育」3番も「教育」「教育」「教育」とずっと入っているわけですね。「子どもと一緒に大人も学べる環境を目指します」ここが「教育」が入っていないのですね。それから最後の6番で「社会を目指します」となっていてちょっと分からない。だから最後のところで「ミライを切り拓こう」のところに『夢や希望をもって「ミライへスイッチON」する人を育む教育環境を目指します』とか、そういうことでまとめていただけたら非常に解かりやすいのではないかなと思いますし、2番の「たくましく生きよう」のところも一言「教育」を入れると「子どもと一緒に大人も学べる教育環境を目指します」そういうところでまろやかに表現できると思いますね。それから予算の面ですが、多分企画の予算だと思うのですが、2年に1回の割合で飯南町に行っている小中学生がいるのですが、教育の現場から言わせると、ぜひ角館にも2年に1回のローテーションを回していただきたいなと思いますね。角館の関係者も待ち望んでいるので、謹吾少年と同年齢の中学2年生の子供たちが来たら大村の偉人の歴史を秋田県の皆さんがたくさんお話したいということで待っていらっしゃるので、出来たら飯南町と同じように企画を石山課長にお願いしたいと思いますね。そこを回してもらいたい。ひとつがこの総合教育会議の場がこういった意見を言える場所だと思いますので、市長にもひとつ宜しくお願ひしたいと思います。

#### **教育委員 嶋崎 真英**

予算のところですが、スクールカウンセラーがそれこそ予算化されていましたが、予算も県の予算で確保して長崎県美術館の事業として作るプログラムの中に、今度一定の人間が預かって、それに県からの学校と、私共の企業と協力してより可能な数で鑑賞してもらおうというようなことを進めています。大村も積極的にご参加していただきたくお願ひできないかなと思っています。

#### **大村市長 園田 裕史**

他にないでしょうか。何でもいいですよ。

**教育委員 佐古 順子**

質問ですが、デジタル教科書とかおっしゃっていましたが、Wi-Fi とか環境はどんなものでしょうか。

**大村市長 園田 裕史**

丸山政策監から説明してもらった方が良いかもしれませんが、ざっくり言うと、今から文部科学省として教育機関の学校に Wi-Fi を整備しなさいと、タブレットを活用した教育をしなさいという方針は結構強く出ているのですが、この令和 2 年度においても、今国会でも審議されていることでもバンと出ているのですが、それがひとり 1 台のタブレット、元々 3 人に 1 台だったタブレットをひとり 1 台にするということを併せて、学校で Wi-Fi 環境を整えなさいということが、お題目であがっているのが「GIGA スクール」という、ソフトバンクで CM している「ギガ」の「GIGA スクール」これに文科省が 4,000 億でしたっけ、400 億でしたっけ。

**教育政策監 丸山 克彦**

令和元年度補正としては、2,300 億円です。今、市長から説明されました「GIGA スクール」という国の構想ですが、まずひとり 1 台のパソコンやタブレットを整備するにあたり、佐古委員のおっしゃったように、回線の部分と端末の部分の事業があり、それぞれに予算がついているということです。ネットワーク事業については、今年度の補正予算、来年度と 2 カ年で整備。端末の事業については 5 カ年計画で整備する方針で、それに応じて、長崎県においてもスケールメリットであるとか、教職員がどこの学校に異動しても使えるということもありますので、端末については県がまとめて計画を進めているところです。回線の方については、来年度、本市の補正予算でお認めいただき整備を進めていきたいと考えております。

**大村市長 園田 裕史**

ありがとうございます。私もこの間教育長と文

科省に行ってきたのですが、とても文科省の気合が入っていて、どこに行っても文科省の役人さんがいろいろな対応の説明をしていて、各市町で絶対してくれということでも予算は確保しているからということ、手を挙げてくれというような言い方でした。

**教育政策監 丸山 克彦**

先ほど佐古委員の質問ですけれども、デジタル教科書については、今、小 5、6 年生だけにデジタル教科書を導入していますが、現時点では、ひとり 1 台端末の整備が出来ていませんので、これは各教室にあるモニターに映し出した上で活用しているということで、今後タブレットが入っていけば、そういった形で活用できるのかなと思います。

**教育委員 嶋崎 真英**

小学校 1 年生から。

**大村市長 園田 裕史**

すみません、それは予算がしっかりついたので、私が説明していなかったのですが、概要の中の 13 番にあるのですが、今までは 5、6 年生だけにデジタル教科書を導入していたのですが、デジタル教科書というのは、モニターに映し出されて教科書をデジタル上で線を引いたり、大きくしたり小さくしたり、理科であれば実験の内容であったり、こういったものを 5、6 年生には入っていたのですが、教育委員会で協議をして、もちろん財政の中でも協議をした中で、それは小学 1 年生からが一番視覚に訴えるということで良いのではないか、この際入れましょうということで、全学年にデジタル教科書を導入することで令和 2 年度は大きくこの部分に投資しております。これはあくまで教科書が、教材が映ることなので、タブレットとは別です。ただここには令和 2 年度大きく予算を投じております。これはデジタル教科書です。デジタル教科書とは別に「GIGA スクール」というのが、文科省が非常に推奨している、ひとり 1 台のタブレットで予算についても国がしっかり取って、全国に配備するという、文科省の

担当が言われましたけれども、ひとり1台、約4万5千円かかるようなところで積算をした人数分で予算を計上されていますので、大体文科省の予算というのは、補助率があまり高くないのですが、今回についてはかなり踏み込んだ予算になっています。丸山政策監が言われたように、今から確かに県内の学校を異動して、例えばこっちの学校のタブレットはさらです。こっちにいけばアイパッドということでは話にならないので、統一というのが一番良いですが、そこは県が音頭をとらないと、統一のソフトにはならないと思いますね。そこら辺を提示してもらいたいと思います。

#### **教育長 遠藤 雅己**

今の環境を説明してもらいたいのですが、Wi-Fiの状況はどのようなのですか。

#### **教育政策監 丸山 克彦**

国の事業としては、必ずしもWi-Fi整備に限定している（国はLTE通信も補助対象としている）訳ではないと思いますが、本市としては環境整備の中で、ひとり1台のタブレットに耐えうるLANを整備した上で、詳細は決まっていませんけれども、Wi-Fiの設置をしたいと考えています。

#### **教育委員 佐古 順子**

現在は、学校図書室が多分貸出とかでパソコンを使っていると思うのですが、そういう環境は整っているということでしょうか。図書室で昼休みとかに本の貸出とかに利用していると思いますが、タブレットではないですが。

#### **学校教育課長 橋口 智秀**

図書の貸出については、図書室にパソコンが1台置いてありまして、そこに全児童生徒の名前が登録しております。それで自分が借りたい本があれば、本にバーコードが付けてありますので、スキャナーでそれを読み取って、その子が借りたということが自動的にパソコンに残されていくシステムになっています。そのデータは、市役所にもサーバーがありますので、全て市役所でもデータが吸い上げられるということで、そういう意味で

は市内の小・中学校の図書の貸出しはパソコンを使ってのシステムが導入されているということになります。

#### **教育委員 佐古 順子**

図書室での調べ学習とかはどのようにしているのですか。昼休みとかは自主学習ができる状況であるのですか。

#### **学校教育課長 橋口 智秀**

現在、校内でパソコンによる調べ学習ができるように、図書館ではなく各教室にLANの回線、有線がきております。有線でパソコンをつなげば教室でも調べることができますし、もちろんパソコン教室の方では、学校規模によりましてけれども、30台ないしは40台パソコンがありますので、一斉に子供たちが調べ学習をする環境は整っているということです。ただWi-Fiという無線の状況ではありませんので、この無線の状況も整備してパソコン室だけではなくて、校内どこに移動してもそういう調べ学習ができる環境をこれから整えていくという状況でございます。

#### **大村市長 園田 裕史**

宜しいでしょうか。そうしましたら、予算に絡んだところであったので、皆さんご意見があられたと思いますが、時間がきてしまいましたので、この後の定例教育会議でも予算に関すること等々、ご議論あられると思いますし、先ほど政策監からありましたように「GIGAスクール」であったり、先般、教育長とも文科省に出向きましていろいろと話を聞いておりますので、また教育長からもお話があると思いますので宜しく願いいたします。

それでは4番、その他の事項でございますけれども、皆様何かございませんでしょうか。

#### **教育委員 中嶋 剛**

ひとつだけ、市長がせっかくここにおられるので、教育予算についてですが、私も現場にいた時からとにかく一般会計の1割をぜひ欲しいなということでおったのですが、それができない。でも今日お聞きしたら8%ぐらいでまだ1割にな

っていない。だから市長さんがおられる間に、私は嶋崎委員とともに提言していかなければならないと思って、本当に教育に携わるものにとってはそう思います。各部の駆け引きがあると思いますけれども、大変だと思えます。

**教育委員 前田 愛**

学校給食のことなんですけれども、今、小学校で4,000円、中学校で5,000円の給食費があるのですが、私は1食何百円で美味しい給食が提供されて感謝しているのですが、中には昔からあったと思うのですが、払えないとか、払えるけれども払わないとか、中学校の給食センターができると決まった時も、私自身はそういう方がいらっしゃるのだったら別につくらなくても中学校はお弁当でも良いのかなと最初は思っていたのですが、その辺の滞納とか問題があったのでしょうか。

**大村市長 園田 裕史**

つまり中学校の給食が始まったけど、なんで給食にしたのかという意見があるということですか。

**教育委員 前田 愛**

いえ、滞納があるのかどうかです。

**大村市長 園田 裕史**

滞納があるかどうかですね、分かりました。

**教育次長 吉村 武史**

細かい金額までは把握できていないのですが、中学校の給食が始まっておりますが、実質滞納がございます。今回、公会計にすることによりまして、現在口座の方がどうしても1金融機関又は2金融機関なのですが、市税等に合わせて9金融機関の中から選択できるということで、利便性も向上いたしますので、そういったことである程度変化があると思っておりますし、納める方、納めない方という不公平をなくすためにも徴収には積極的に対応していきたいと考えております。

**教育委員 前田 愛**

それはちなみに、無料になるとかは考えはないのですか。

**大村市長 園田 裕史**

一応ですね、考えと方針は今のところございません。給食費の財源、お金だけでいうと、小中学校の給食運用についていうと、年間4億お金がかかるという試算になりました。つまり10年で40億ということになるので、この場合は総合教育会議の場なので、私個人的には、毎年いわゆるソフト面というハード面ではない事業に、毎年4億計上すると支出として重いということと、それとやはり食べる物だから一定の財源ではないということ、食べる量に対して対価を払うということが必要になるし、若しくは、例えば国として児童手当を切替えて、そういう現物に変えて、国として義務教育期間の給食費は無料にするとか、ただし、児童手当がそれに切替わるということであつたり、国の方針としてあつてはいいのかなと思いたくはありますが、一自治体で給食費を無償にしていくという方針はちょっと今の中で財源の方が、食べるものに対してお金を払うということをお願いしたいなと。滞納の話をしましたけれども、例えば今から6、7年前にPTA会長をしていましたけれども、その時の小学校給食の滞納というのはたくさんあったんですよ。ところが教育委員会ですらご議論いただいて、入学した時に口座をちゃんと書こうと、誓約書を書いたり、あれがあつてから滞納が爆発的に減って、今の小学校の滞納者は、昔と比べて少なくて何百万ぐらいだと思います。昔は何千万もありました。中学校を始めた時に、教育長と話をして、最初が大事だから最初の給食が始まる時に滞納をゼロにしようと、当たり前ですが、ずっとゼロだったんですが、最初を取れなかったから、後からかさむからこれもやりましょうということで、そんなにひどい滞納になっていませんね。宜しかったですでしょうか、大丈夫ですか。それでは進行を事務局にお返しします。

**企画政策部長 山下 健一郎**

ありがとうございました。時間を過ぎておりますので、次回のご案内をしたいと思います。次回、令和2年度の第1回の総合教育会議を5月27日、

水曜日で調整をさせていただきたいと思います。  
開催場所については、今後調整させていただきたいと思っております。テーマについてもこれから中身を練っていきたいと思っておりますので、後ほどご連絡をさせていただきます。以上で、時間が過ぎて申し訳ございませんが終了となります。最後に何かございませんでしょうか。それではこれを持ちまして令和元年第3回総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。